

## 福島第一原子力発電所現地確認報告書

### 1 確認日

令和7年2月19日（水）

### 2 確認箇所

北側護岸エリア浚渫土砂置き場（図1）

### 3 確認項目

5/6号機取水路開渠内浚渫工事に伴う北側護岸エリア浚渫土砂保管の状況確認

### 4 確認結果の概要

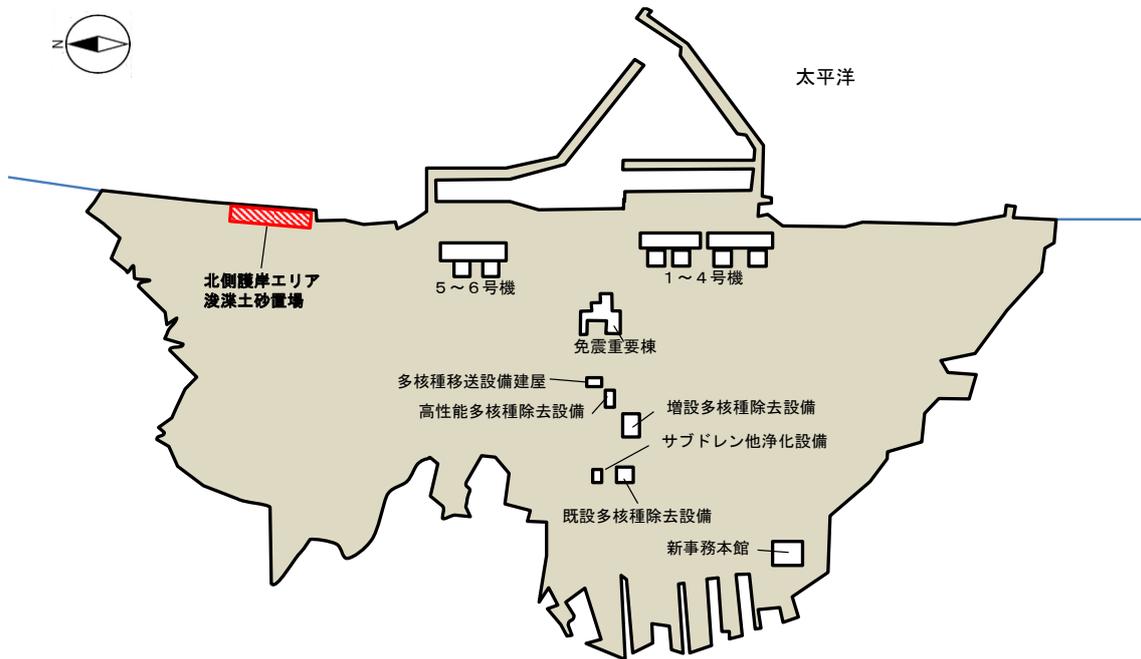
多核種除去設備等処理水（以下「ALPS処理水」という。）は、トリチウム濃度が1,500Bq/L未満となるよう、海水で大幅に希釈してから海洋に放出している。

希釈用の海水は、5/6号機取水路開渠（港湾内）から5号機取水路を通じて取水している。取水に伴い港湾外から5/6号機取水路開渠内に砂が流入し、取水に影響を及ぼす恐れがあるため、海底の堆砂状況に応じて浚渫工事を継続して実施している。

今回は、5/6号機取水路開渠内浚渫工事に伴い発生した土砂の搬出先である北側護岸エリアの土砂保管の状況を確認するとともに保管されている浚渫土砂の線量測定を実施した。

浚渫工事に伴い発生した土砂は、北側護岸エリアの土砂置場に延長約150m・幅約20m、高さ約3mの盛土状に保管されていた。（写真1）

- ・ 当該土砂の保管にあたり、東京電力HDでは、海岸線から陸側約35mの位置にセメント改良土による高さ約2mの堤防を築き、その陸側に浚渫土砂を盛土していた。（写真1、2）
- ・ 5/6号機取水路開渠内での浚渫作業としては、土砂の水抜きをするためのピット（浚渫用土砂ピット）が開渠内に設けられており、そこで一旦水抜きされる。水抜きされた浚渫土砂はダンプトラックで運搬され、当該土砂置場で保管される。その際、搬入基準（表面線量率 $\gamma$ :0.01mSv/h、 $\beta$ :検出なし）を満たしていることを確認した上で、持ち込まれることになっているため線量の確認を行った。（写真3、4）
- ・ 土砂置き場の北側・南側の2箇所において電離箱を用いて計測した結果は0.01mSv/h未満であり、搬入基準を満たしていることを確認した。



(図1) 福島第一原子力発電所構内概略図



(写真1-1)  
北側護岸エリア浚渫土砂置場の  
状況① (南側：搬入口付近)



(写真1-2)  
北側護岸エリア浚渫土砂置場の  
状況② (南側から北側に向け盛土  
が進められている)

浚渫土砂の盛土部分手前の海岸  
に沿って、構築されたセメント  
改良土による築堤物



(写真 1 - 3)  
北側護岸エリア浚渫土砂置場の  
状況③ (南側から盛土が行われ、  
延長、約 150m 程度)

浚渫土砂の盛土

セメント改良土の築堤物

搬入用の車道



(写真 2)  
浚渫土砂盛土部分の最上部より  
北側の状況



(写真 3)  
浚渫土砂の盛土部分における  
線量測定状況① (南側)



(写真 4)  
浚渫土砂の盛土部分における  
線量測定状況② (北側)

## 5 プラント関連パラメータ確認

各パラメータについて、異常な値は確認されなかった。